（別紙２）

論文審査の結果の要旨

氏名　青木　健

本論文は、17 世紀初頭にイランから、インドに移住し、イスラーム哲学とイスラーム神秘主義の影響のもとで、独自のゾロアスター教の再解釈を行ったアーザル・カイヴァーンと彼の弟子たちの思想を明らかにしたものである。

論文は５章から構成される。第１章では、アーザル・カイヴァーン学派の残した著作の書誌学的紹介と現在までのこの学派に関する研究史がきわめて詳細に検討される。第２章第１節では、アーザル・カイヴァーンの弟子たちの著作から、アーザル・カイヴァーンに関する言及が全て抽出され、それをもとに、アーザル・カイヴァーンの生涯の全体像が復元され、さらには偽典『ダサーティール』の真の著者がアーザル・カイヴァーンであることが推測される。第２節では、アーザル・カイヴァーンの名で伝わる唯一の著作である『カイホスローの杯』の内容が分析され、彼の神秘主義思想がクブラーウィー系教団、特にヌールバフシュ教団の強い影響下にあることが明らかにされる。第３章では、流出論と救世主思想の二側面において、アーザル・カイヴァーン学派が、サーサーン王朝時代のゾロアスター教を継承している可能性があるとの推論がなされる。第４章では、偽典『ダサーティール』に焦点を当てて、偽典形成のメカニズムが追求される。第５章ではアーザル・カイヴァーンの弟子たちの思想が取り扱われる。第１節ではアーザル・パジューの著作『古代の章』が取り上げられ、そこではイスラーム哲学の思想が支配的でゾロアスター教文献の援用は従属的な役割しか果たしていないこと、さらには、そのゾロアスター教文献の援用も不正確であることが明らかにされる。第２節ではファルザーネ・バフラームとモーベド・シャーの著作をもとに、彼らが構想した、ゾロアスター教とイラン・イスラーム思想を一貫して流れる「ペルシア思想史」が復元される。

本論文の主題となったアーザル・カイヴァーン学派は今日では完全に忘れ去られた存在であり、本論文に取り上げられた著作の大部分は今まで誰によっても論じられたことがない。その意味では先駆的な研究であり、ムガール帝国時代のイスラーム的ゾロアスター教というユニークな研究分野を独自に開拓した意義は大きい。所々に論理の飛躍や強引な推論がみられたり、またパフラヴィー語やアヴェスター語の読解に不正確さがみられるとはいえ、アーザル・カイヴァーン学派を研究する上での最初の確実な基礎を提供したことに疑問はない。よって審査委員会は一致して、本論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいものと判定する。